第1章　施肥基準量

第１章　施肥基準量

１　利用にあたって

(1) 目標収量について

施肥量を決定するためには作物の養分吸収量が必須条件となる。目標収量は、基準となる収量を示したもので、単位はkg/10aである。

(2) 施肥基準量について

施肥量は目標収量を確保するための標準的な施肥量を県内一円〔ただし、水稲については大まかな地域区分とし、作物によっては作期、作型（栽培型を含む）や土壌タイプで区分した〕で示してあるので、地域の土壌や気象などの環境条件に応じて加減する必要がある。特に施設園芸等で毎年施肥基準量を施用し続けた場合、特定の養分が過剰になることが多々あるので、土壌診断を必ず行い、多い場合には減肥する（第５章参照）。

(3) 堆肥の施用について

ア　地力の維持増進を図るため、堆肥を適切に施用する。

地力窒素（可給態窒素）は、微生物由来によるものが大半を占める。このため、地力窒素を維持するためには微生物のエサである有機物をある程度、毎年施用する必要がある（表１－１）。

特にＣ／Ｎ比の較的大きい稲わら堆肥や牛ふん堆肥の施用は地力窒素の発現に有効である。一方、Ｃ／Ｎ比の小さい鶏ふんは地力窒素の発現効果が小さいことに留意する（P88～89参照）。

表１－１　堆肥等有機質資材のほ場への施用量の目安

（t／10a／作）

	牛ふん堆肥 副資材なし	牛ふん堆肥 オガクズ混合	牛ふん堆肥 モミガラ混合	牛ふん堆肥 バーク混合	稲わら堆肥	稲わらすき込み（現物）
水稲　乾田	0.5～1	0.5～1	0.5～1	0.5～1	1	0.5
水稲　半湿田	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3
普通畑	1	1	1	1	1	0.5
野菜　露地	1～1.5	1～1.5	1～1.5	1～1.5	1～1.5	0.5
野菜　施設	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	0.3～0.5
花き　露地	1	1	1	1	1	-
花き　施設	2	2	2	2	2	0.5
果樹　露地	1～2	1～2	1～2	1～2	1～2	0.5
果樹　施設	-	1	1	1	1	-
飼料作物	3～4	3～4	3～4	3～4	-	-

(注)この目安は、連用を前提に有機物中の累積効果を考慮し、作物の種類に応じて設定したものである。このため、連作体系、土壌、気象及び栽培品目等の条件に応じて適宜変えることも必要である。また、新規造成地や単年度施用の場合は、この目安量より多くしても差し支えない。

イ　堆肥の有効成分量を施肥設計に組み入れる。

環境保全型農業を推進するため、堆肥に含まれる肥料成分を適切に評価し、施肥設計に組み入れることで過剰施肥を防止する。

ウ　施肥基準量から堆肥に含まれる肥料成分量を差し引いて施肥する。

この施肥基準は、作物が健全に生育するために必要な窒素（Ｎ）、りん酸（P_2O_5）、加里（K_2O）の量である。この基準量から堆肥に含まれる有効成分量を差し引いた量を化学肥料の施用量とする（土壌診断を行い、多い場合には減肥することに留意する）。

また；堆肥の種類、副資材の量や質により有効成分量は異なるため、基本的には成分表示されているものを施用することが望ましい。ただし、成分が不明の場合には便宜的に表１－２、３の値を用いて表１－５の有効量を用いることとする。オガクズ牛ふん堆肥（表１－２、３の値を用いる）を例にとると、次のように計算される。

窒素有効量（現物１ｔ当たりkg）：1000 ×（100 － 62)/100 × 1.8/100 × 10/100 ＝ 0.7

堆肥現物量(kg)　水分(%)　窒素含量(%)　肥効率(%)

表１－２　堆肥等有機質資材の成分例

種類（畜種）	水分（%）	全炭素（%）	全窒素（%）	C／N比	りん酸（%）	加里（%）	石灰（%）	苦土（%）
家畜ふん堆肥（副資材なし）								
（牛ふん）	50	34.9	2.2	16.7	2.9	2.9	4.2	1.3
（豚ぶん）	36	35.0	3.7	9.9	6.3	3.0	5.9	3.3
（鶏ふん・採卵鶏）	20	27.9	3.5	8.4	7.3	3.9	15.8	2.2
オガクズ混合堆肥								
（牛ふん）	62	38.4	1.8	22.0	2.1	2.4	2.8	1.0
（豚ぶん）	54	38.3	2.3	17.2	3.7	1.8	3.3	1.1
（鶏ふん・採卵鶏）	52	34.0	1.9	20.0	4.1	2.2	9.2	1.0
モミガラ混合堆肥								
（牛ふん）	59	31.4	2.1	18.9	3.8	2.4	3.6	1.1
（豚ぶん）	44	36.1	2.4	15.8	4.0	1.4	4.0	1.2
稲わら混合堆肥								
（牛ふん）	77	36.1	2.2	16.7	2.1	2.3	2.4	1.0
稲わら堆肥	75	28.0	1.6	18.0	0.8	1.8	2.0	0.6
バーク堆肥	60	40.1	1.7	30.0	0.8	0.4	-	-
落ち葉堆肥	75	50.1	2.8	17.9	0.5	1.0	-	-
稲わら（現物）	25	40.0	0.6	66.0	0.2	2.2	0.6	0.1
もみがら（現物）	12	33.0	0.4	80.0	0.2	0.3	0.1	-
乾燥家畜ふん								
（牛ふん）	84	41	1.8	23	2.7	0.7	3.7	1.5
（豚ぶん）	81	42	3.9	11	4.8	0.4	4.9	1.6
（鶏ふん・採卵鶏）	78	42	4.6	9	8.6	3.1	10.9	1.6
（鶏ふん・ブロイラー）	40	39	3.5	11	4.5	3.0	1.6	0.8

水分は対現物、それ以外は対乾物値

表１－３　堆肥の肥効率の目安

堆肥の種類	畜種	肥効率（%） 窒素	りん酸	加里
家畜ふん堆肥	牛ふん	20	60	90
	豚ぶん	50	70	90
	鶏ふん	60	70	90
オガクズ混合堆肥	牛ふん	10	50	90
	豚ぶん	40	60	90
	鶏ふん	30	60	90
モミガラ混合堆肥	牛ふん	20	60	90
	豚ぶん	50	60	90
稲わら混合堆肥	牛ふん	20	60	90
稲わら堆肥	-	30	50	90
バーク堆肥	-	0	50	90
落ち葉堆肥	-	30	50	90

(注)この表の肥効率は、あくまでも平均的なものを想定している。窒素の肥効率は、堆肥が完熟になれば表の値より小さくなり、未熟であれば表の値より大きくなると考えられるので、表１－４を参考に窒素の肥効率を加減する。また、見直しや確認の試験が行われており、値が変わる場合がある。

表１－４　現地で行う堆肥の腐熟度判定基準

色	黄～黄褐色（2）、褐色(5)、黒褐色～黒色（10）
形状	現物の形状をとどめる（2）、かなり崩れる(5)、ほとんど認めない（10）
臭気	ふん尿臭強い（2）、ふん尿臭弱い(5)、堆肥臭（10）
水分	強く握ると指の間からしたたる（2）、強く握ると手のひらにかなりつく(5)、強く握っても手のひらにあまりつかない（10）
堆積中の最高温度	50℃以下（2）、50～60℃(10)、60～70℃(15)、70℃以上(20)
堆積期間	家畜ふんのみ　：20日以内（2）、20日～２か月(10)、２か月以上(20) 作物残さとの混合物　：20日以内（2）、20日～３か月(10)、３か月以上(20) 木質物との混合物　：20日以内（2）、20日～６か月(10)、６か月以上(20)
切り返し回数	２回以下（2）、３～６回(5)、６回以上(10)
強制通気	なし(0)、あり(10)

これらの点数を合計し、未熟（30点以下）、中熟（31～80点）、完熟（81点以上）とする。

表１－５　堆肥現物１ｔの有効成分量

堆肥の種類	畜種	有効量（kg）		
		窒素	りん酸	加里
家畜ふん堆肥	牛ふん	2.2	8.7	13.1
	豚ぶん	11.8	28.2	17.3
	鶏ふん	16.8	40.9	28.1
オガクズ混合堆肥	牛ふん	0.7	4.0	8.2
	豚ぶん	4.2	10.2	7.5
	鶏ふん	2.7	11.8	9.5
モミガラ混合堆肥	牛ふん	1.7	9.3	8.9
	豚ぶん	6.7	13.4	20.2
稲わら混合堆肥	牛ふん	1.0	2.9	4.8
稲わら堆肥	-	1.2	1.0	4.1
バーク堆肥	-	0	1.6	1.4
落ち葉堆肥	-	2.1	1.0	3.6

作物別施肥基準量の「堆肥及び土づくり資材等の施用例」には、作物ごとに県内で最も使用されると想定される堆肥を示し、表１－５の値を用いて有効成分量も示した。しかし、表１－６に示したように、オガクズ牛ふん堆肥を施用した場合、加里成分が制限要因となって 1.5 ｔしか施用できず、地力窒素レベルを維持することが困難となる。稲わら牛ふん堆肥のように加里が少ない有機物であれば 2.5t まで施用することができる（表１－７）。

表１－６　基肥施肥量の計算例(その1)

トマト（夏どり、桃太郎）にオガクズ牛ふん堆肥を施用する場合

	窒素	りん酸	加里	
堆肥１ｔ当たりの有効成分量（kg）	0.7	4.0	8.2	①
基肥としての施肥基準量（kg/10a）	12.0	25.0	12.0	②
最大可能な代替率（%）	30	100	100	③
堆肥による最大可能な代替量（kg）	3.6	25.0	12.0	④=②×③/100
代替量をまかなうために必要な堆肥量（t）	5.1	6.3	1.5	⑤=④/①
堆肥1.5tの有効成分量(kg)	1.0	6.0	12.0	⑥=①×1.5
基肥施用量（kg/10a）	11.0	19.0	0	⑦=②-⑥

①堆肥１ｔ当たりの化学肥料成分換算量（表１－５の値）
②基肥としての施肥基準量
③④堆肥の肥料成分でまかなうことが可能な割合及び量
⑤⑥ここでは最も数字が小さい加里成分が堆肥施用の制限となる。このため、施用量を1.5tとして各成分を再計算する。
⑦オガクズ牛ふん堆肥1.5ｔを施用した時の化学肥料の基肥施用量

表１－７　基肥施肥量の計算例(その２)

トマト（夏どり、桃太郎）に稲わら牛ふん堆肥を施用する場合

	窒素	りん酸	加里	
堆肥１ｔ当たりの有効成分量（kg）	1.0	2.9	4.8	①
基肥としての施肥基準量（kg/10a）	12.0	25.0	12.0	②
最大可能な代替率（%）	30	100	100	③
堆肥による最大可能な代替量（kg）	3.6	25.0	12.0	④=②×③/100
代替量をまかなうために必要な堆肥量（t）	3.6	8.6	2.5	⑤=④/①
堆肥2.5tの有効量(kg)	2.5	7.2	12.0	⑥=①×2.5
基肥施用量（kg/10a）	9.5	17.8	0	⑦=②-⑥

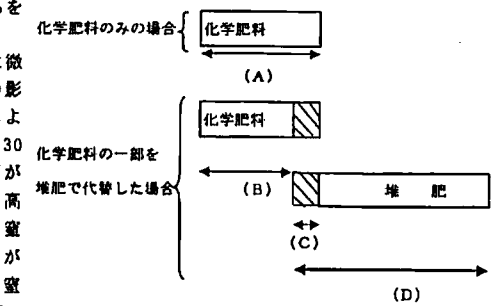
①堆肥１ｔ当たりの化学肥料成分換算量（表１－５の値）
②基肥としての施肥基準量
③④堆肥の肥料成分でまかなうことが可能な割合及び量
⑤⑥ここでは最も数字が小さい加里成分が堆肥施用の制限となる。このため、施用量を2.5tとして各成分を再計算する。
⑦稲わら牛ふん堆肥2.5ｔを施用した時の化学肥料の基肥施用量

エ　注意すべき点

(ｱ) 堆肥による窒素成分の化学肥料代替率（図１－１参照）は30%を限度として設定する。

堆肥中の窒素成分の有効化は微生物の働きによるため、地温の影響を受ける。このため、堆肥による窒素成分の化学肥料代替率を30%より多くすると、作物の生育が不安定となる。また、代替率を高くするほど、ほ場に投入される窒素量は多くなり、環境への負荷が増すことが懸念される。なお、窒素以外の肥料成分、りん酸、加里、石灰、苦土については、作物への肥効に限れば代替率を100%まで設定することができる。家畜ふん堆肥の堆肥施用量は、窒素、りん酸、加里の有効量を計算し、過剰になる成分量に合わせて施用量を調節する(表1－6、7)。なお、堆肥に含まれる有効成分の計算は基肥のみに用い、追肥には化学肥料を施用する。

図1－1　堆肥中窒素の化学肥料代替率と肥効率



(A)：化学肥料のみで栽培する場合の基肥窒素施用量
(B)：化学肥料での基肥窒素施用量
(C)：化学肥料と代替できる堆肥中の窒素量
(B)＋(C)＝(A)
(D)：堆肥中の全窒素量
化学肥料代替率（%）＝(C)／(A)×100
堆肥の肥効率（%）＝(C)／(D)×100

(ｲ) 堆肥の成分含有率、肥効率はバラツキが大きいので、使用者が各自でこれらを把握することが必要である（P103～107参照）。

(ウ) 堆肥の重量は容積及び容積重を用いて計算する。

例えば、マニュアスプレッダーに積み込んだ堆肥が縦3 m、横1.5m、高さ45cmであれば、容積は3 m × 1.5m × 0.45m ≒ 2.0m³ となる。容積重が0.5であれば堆肥重量は

2.0m³ × 0.5 t／m³ ＝ 1.0t となる（容積重の簡易な測定法はP97を参照）。

(4) 石灰質資材、りん酸質資材の施用量について

作物別施肥基準量の「堆肥及び土づくり資材等の施用例」に示した石灰施用量（苦土炭カル、けいカル等）は当該作物の石灰吸収量、自然溶脱量、化学肥料施用に伴う副成分（酸根）の中和量から算出した。また、りん酸施用量（ようりん）は、果樹等の新植を想定したものである。しかし、連年施用することにより、これらの含量が基準値を上回る場合があるので、土壌診断を行い、多い場合には施用量を減らす（第5章参照）。

(5) 適用範囲について

施肥基準値を適用できる範囲として、作期、作型（栽培型を含む）等を示しているので、ここに掲げる以外の作期、作型（栽培型を含む）、あるいは特殊な栽培を行う場合は、施肥量を加減する。

(6) 記号等について

ア　表の中の作型模式図の記号は次のとおりとする。

○播種　∩トンネル　----- 苗代又は苗床期間

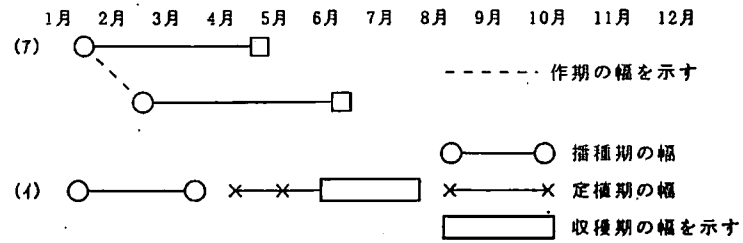
Ⓜマルチ　— 生育期間　♧萌芽期

× 定植　〰休眠期　□収穫時期

⌂ハウス　△ピンチ

Ⓚ基肥　①②③④ 追肥回数と時期

イ　作型模式図の読み方について



(7) 単位等について

ア　窒素(N)、りん酸(P_2O_5)、加里(K_2O)の施用量は、それぞれ10a当たりの成分のkgとする。

イ　堆肥及び土づくり資材等欄の施用量は10a当たりの現物のkgとする。

2　作物別施肥基準量

(1)　水稲・麦類

作物名	作期	品種名	栽植様式	対象地域	作期模式図（1月〜12月）	日標収量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 時期	追肥 施用量	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
1. 水稲	早植栽培（稚苗）	コシヒカリ	m²当たり 20〜22株	北部（山間）		520	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	3〜4 12 9	-15	3程度 3程度	6〜7 12 12	・モミガラ牛ふん堆肥を500〜1,000kg施用する。 【この場合、次の基肥から 窒　素：0.9〜1.7kg りん酸：4.7〜9.3kg 加　里：4.5〜8.9kg を差し引く(減)。】 ・けいカルを 中部（黒ボク） 80kg 北部（山間） 北部（黒ボク） 100kg 南部（沖縄） 160kg 施用する。	1. 可給態りん酸の少ない（乾土100g当たり10mg以下）水田では、ようりんを80〜120kg/10a施用する。 2. 稲わらをすき込む場合は、分解促進のため、石灰窒素10〜20kg/10aを施用する。 石灰窒素を連用しているほ場では基肥窒素を減らす。 3. 堆肥は、牛ふん堆肥の場合、乾田では0.5〜1t/10a、半湿田では0.5t/10aを基準とする。 4. 加里肥料の追肥は、出穂前40〜45日頃に加里成分で4〜5kg/10a施用する。 5. 追肥（穂肥）は、生育診断により時期・量を決める。 肥料は、緩効性肥料入りの1回施用を基本としている。 6. 標高350m以上の分げつの確保しにくい地域では、窒素成分で1kg/10a程度増施する。
				北部（黒ボク）		540		N P_2O_5 K_2O	3〜4 12 9	-15	3程度 3程度	6〜7 12 12		
				中部（黒ボク）		540		N P_2O_5 K_2O	2〜3 12 6	-15	3程度 3程度	5〜6 12 9		
				南部（沖縄）		520		N P_2O_5 K_2O	2 9 6	-15	2〜3 2〜3	4〜5 9 8〜9		
		なすひかり		北部（山間）		580		N P_2O_5 K_2O	4〜5 15 8	-20	3程度 3程度	7〜8 15 11		
				北部（黒ボク）		600		N P_2O_5 K_2O	4〜5 15 8	-20	3程度 3程度	7〜8 15 11		
				中部（黒ボク）		600		N P_2O_5 K_2O	4〜5 12 6	-20	3程度 3程度	7〜8 12 9		
		あさひの夢		中部（黒ボク）		600		N P_2O_5 K_2O	5〜6 15 9	-20	3〜4 3〜4	8〜10 15 12〜13		
				南部（沖縄）		580		N P_2O_5 K_2O	5〜6 10 8	-20	3〜4 3〜4	8〜10 10 11〜12		

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2〜5を参考に決定する。

作物名	作期	品種名	栽植様式	対象地域	作期模式図（1月～12月）
1. 水稲	普通植栽培（稚苗）	コシヒカリ	㎡当たり 20～22株	中部（黒ボク）	○-×――□
				南部（沖積）	○-×――□
		あさひの夢	㎡当たり 22～24株	中部（黒ボク）	○-×――□
				南部（沖積）	○-×――□
	直播栽培（湛水直播）	コシヒカリ	条播又は打込式	中・北部	○――□
		なすひかり		中・北部	○――□
		あさひの夢		中・南部	○――□

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量（kg/10a）	酒正pH	施肥量（kg/10a） 成分	基肥	追肥 時期	追肥 施用量	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
480	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	1～2 12 6	-15	1～2 1～2	2～4 12 7～8	・モミガラ牛ふん堆肥を500～1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.9～1.7kg りん酸：4.7～9.3kg 加里：4.5～8.9kg を差し引く（※）。】 ・けいカルを 中部（黒ボク）80kg 北部（山間） 北部（黒ボク）100kg 南部（沖積）160kg 施用する。	1. 可給態りん酸の少ない（乾土100gあたり10mg以下）水田では、ようりんを80～120kg/10a施用する。 2. 稲わらをすき込む場合は、分解促進のため、石灰窒素10～20kg/10aを施用する。 石灰窒素を施用しているほ場では基肥窒素を減らす。 3. 麦稈で麦ワラをすき込む場合は、初期の窒素飢餓を防ぐため、窒素成分で1～1.5kg/10aを増施する。 4. 堆肥は、牛ふん堆肥の場合、乾田では0.5～1t/10a、半湿田では0.5t/10aを基準とする。 5. 加里肥料の追肥は、出穂前40～45日頃に加里成分で4～5kg/10a施用する。 6. 追肥（穂肥）は、生育診断により時期・量を決める。 肥料は、緩効性肥料入りの1回施用を基本としている。
460		N P_2O_5 K_2O	2 7 5	-15	1～2 1～2	3～4 7 6～7		
540		N P_2O_5 K_2O	5～6 10 7	-18～20	2～3 2～3	7～9 10 9～10		
540		N P_2O_5 K_2O	5～6 8 7	-18～20	2～3 2～3	7～9 8 9～10		
480		N P_2O_5 K_2O	1～2 12 6	-10	1～2 1～2	2～4 12 7～8		1. 施肥量は地力により加減する。 2. 追肥は移植栽培より5日程度遅らせる。
500		N P_2O_5 K_2O	3～4 12 6	-15	2～3 2～3	5～7 12 8～9		
500		N P_2O_5 K_2O	3～4 10 8	-15	2～3 2～3	5～7 10 10～11		

（注）

1　前作物がある場合の水稲の基肥施肥量

水稲で前作物がある場合は、下表により基肥施肥量を加減する（いずれも土壌改良が実施済みの水田を基準とする）。

前作物	基肥に対する施肥割合（%）			備　　考
	N	P_2O_5	K_2O	
たまねぎ	25～30	100	100	1 耐倒伏性、晩植適応品種の選定。 2 春どりキャベツは外葉を搬出する。 3 水管理には特に注意する。 4 けいカルを 160kg ／10ａ程度施用する。
キャベツ なす	0～25	100	100	
いちご	0～50	100	100	
大　豆	50～70	100	100	コシヒカリでは窒素を30％とする。
イタリアンライグラス	100～110	100	100	1 すき込み後、直ちに湛水する。 2 水管理には特に注意する。 3 けいカルを 160kg ／10ａ程度施用する。

2　保全管理水田の復田

代かき湛水状態で保全管理をしていた湿田や、湛水状態で雑草が生えていた乾田では、地力窒素を温存しているため、復田すると窒素の発現が多いことから、次の点に留意する。

ア　地力窒素の発現量を推定するのが困難であるため、耐肥性が強い品種を作付けする。

イ　保全管理３年以内の水田の復田では、基肥窒素を20～30％減肥する。

ウ　保全管理３年以上の水田の復田では、基肥無窒素で栽培する。

エ　土壌診断に基づき可給態りん酸 10mg ／100g以上になるように、ようりんを施用する。土壌診断ができない場合には、ようりんを 150kg ／10ａ程度施用する。特に、黒ボク土の水田では必ず実施する。

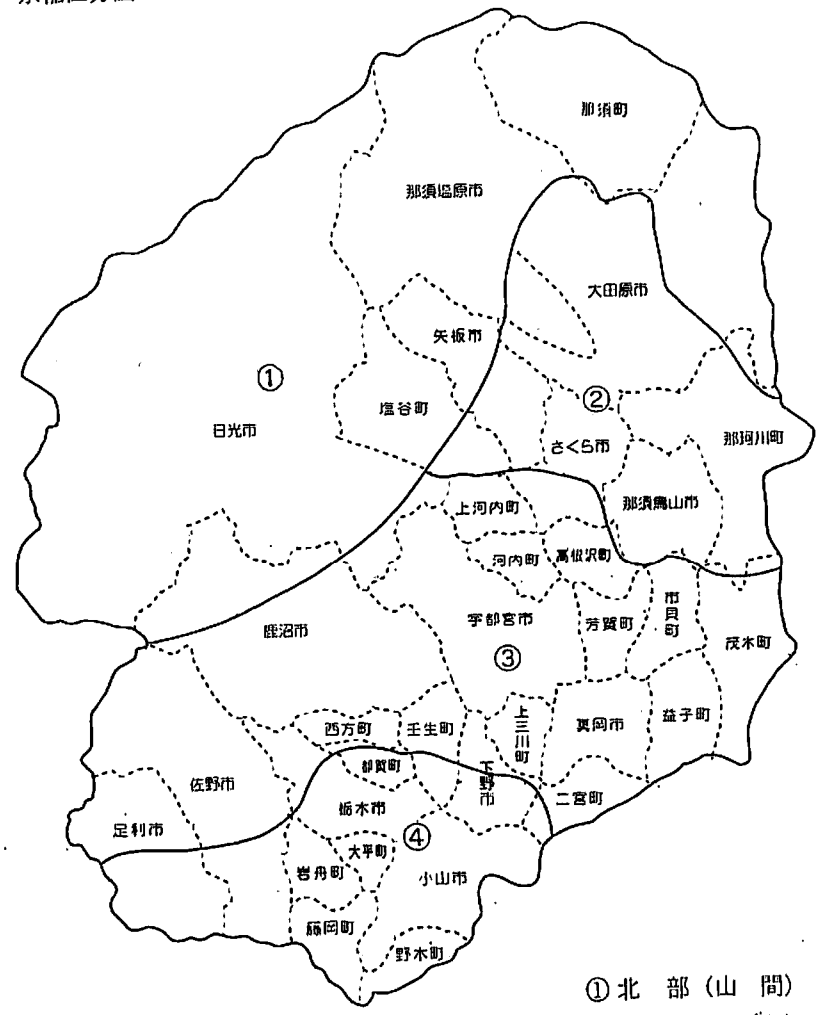
オ　畑状態・無作付けで管理していた乾田では、漏水防止のため代かきをていねいに行う。また、有機物が分解し地力の消耗があるので、堆肥を1,000kg施用する。

雑草が極めて多い荒れた水田では、次の点に留意する。

ア　雑草を刈り取り、ほ場外に搬出する。

イ　プラウ耕を実施する。

水稲区分図



①北　部（山　間）
②北　部（黒ボク）
③中　部（黒ボク）
④南　部（沖　積）

※市町村の区分は、平成１８年３月末日現在

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
2. 陸稲	普通期栽培	トヨハタモチ	条播 畦幅60cm	
		ゆめのはたもち		
3. 二条大麦	ドリル播栽培	ミカモゴールデン スカイゴールデン なすニ条	7～9Kg	
		みょうぎ二条	7～9Kg	
		あまぎ二条	8～9Kg	
4. 六条大麦	ドリル播栽培	シュンライ シルキースノウ	7Kg	
5. 小麦	ドリル播栽培	農林61号	7～8Kg	
		イワイノダイチ	7～8Kg	
		タマイズミ	8～9Kg	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
240	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	4 7 6	2 2	2 2	8 7 10	・モミガラ牛ふん堆肥を500～1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.9～1.7kg りん酸：4.7～9.3kg 加里：4.5～8.9kg を差し引く（KK）。】	
260		N P_2O_5 K_2O	5 8 6	2 2	2 2	9 8 10		
400～420	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	5.5～6.5 13 11			5.5～6.5 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0k 加里：8.7kg を差し引く（KK）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	1. 生わら分解促進に石灰窒素（10Kg）を施用するときは、基肥窒素は1Kg程度減ずる。 2. 施肥量は次により加減する。 ア. 砂質地10～20%増 イ. 大豆あと30%減
		N P_2O_5 K_2O	7 13 11			7 13 11		
		N P_2O_5 K_2O	5.5 13 11			5.5 13 11		
450	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	6～7 13 11			6～7 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を800kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.6kg りん酸：3.7kg 加里：6.6kg を差し引く（KK）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	二条大麦に準じる
420	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	8 13 11			8 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を800kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.6kg りん酸：3.7kg 加里：6.6kg を差し引く（KK）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	地力の低い砂質土及び肥を多用年には、2月下旬～3月上旬に窒素成分で2～4Kgを追肥する。
		N P_2O_5 K_2O	10 13 11			10 13 11		
480		N P_2O_5 K_2O	11 9 9			11 9 9		1. 専用基肥肥料を施用する。 2. 出穂期の葉色が濃い場合には追肥する。

(2) 豆、雑穀類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図 (1月〜12月)	目標収量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
6. 大豆		タチナガハ	60×10cm 1本立		300	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	2 8 8			2 8 8	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	
7. 小豆		大納言	60×30cm 1本立		200	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	2 8 8			2 8 8	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	
8. ささげ			60×10cm 1本立		150	5.5〜6.0	N P_2O_5 K_2O	2 8 8			2 8 8	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	
9. そば		在来種	60cm 条播		150	5.5〜6.0	N P_2O_5 K_2O	1〜2 4 4			1〜2 4 4	・オガクズ牛ふん堆肥を500kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.4kg りん酸：2.0kg 加里：4.1kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを40kg施用する。	
10. らっかせい	マルチ栽培	千葉半立 ナカテユタカ	畦巾55cm 45×24cmの2条		から付300	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	2〜4 12 12			2〜4 12 12	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	普通栽培では施肥量を20〜30%増量する。
11. はとむぎ		岡山系 中里系	60cm 条播		250	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	7 13 13	3	3	13 13 13	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2〜5を参考に決定する。

(3) いも類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図 (1月〜12月)	収穫量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
12. ばれいしょ		男しゃく トヨシロ(加工) メークィーン	60×30cm 5,500株		2,500	5.5〜6.0	N P_2O_5 K_2O	9 16 15	3 3		12 16 18	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カル40kgを施用する。	追肥は粉状施用する。
13. かんしょ	マルチ栽培	ベニアズマ	60×36cm 4,600株		2,500	5.5〜6.0	N P_2O_5 K_2O	4 10 12			4 10 12	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを40kg施用する。	一般に砂質土では生育が速やかで早堀に適する。
14. さといも	マルチ栽培	愛知早生 女早生 土垂系 善光寺	60×30cm 〜55×60cm 2,380 〜4,600株		3,000	5.5〜6.0	N P_2O_5 K_2O	17 20 17	5 5		22 20 22	・オガクズ牛ふん堆肥2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.4kg りん酸：8.0kg 加里：16.4kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを40kg施用する。	子いも栽培では窒素を、親いも栽培では加里を増施する。
15. やまのいも		やまといも	60×30cm 5,500株		2,500	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 20	5 		20 20 20	・オガクズ牛ふん堆肥を1,500kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.0kg りん酸：6.0kg 加里：12.3kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	生育期間が長いので緩効性肥料を併用する。

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2〜5を参考に決定する。

(4) 野菜類

ア 果菜類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
16. きゅうり	ハウス冬春どり	ハイグリーン22 シャープ1	170×40cm 1,500株	①②③
	初夏どり	南極3号 シャープ1	150×50cm 1,000株	①②③
	夏秋どり	南極1号 フロンティア	250×50cm 800株	①② ①②
	ハウス秋どり	オーナー	250×45cm 2条（条間70） 1,400株	①②
17. すいか	半促成	紅こだま	300×100cm 330株	①
18. メロン	半促成	クインシー タカミ プリンスメロン	120×90cm 920株	①② ①②
19. かぼちゃ	初夏どり 裏どり	ほっこりえびす みやこ イーティ2 ニューなかやま	300×100cm 330～500株	
20. なす	夏秋どり	千両2号 式部	160～200×60cm 800～1,000株	①②③ ①②③
	春夏どり	千両2号 式部	180×55cm 2条（条間30） 1,000株	①②③ ④⑤ 切り戻し
	冬春どり （ハウス越冬）	式部	170～190×65cm 850株	①②③ ④⑤⑥⑦

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

収穫量（kg/10a）	適正pH	施肥量（kg/10a） 成分	基肥	追肥（回） 1回	2回	3回	4回	5回	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
15,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	25 35 25	5 5	5 5	5 5			40 35 40	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（※）。］ ・苦土炭カルを120kg施用する。	樹勢が弱くなると不良果が増加するので速効性の肥料を追肥するとともに病害虫の防除につとめる。
8,000		N P_2O_5 K_2O	20 28 20	5 5	5 5	5 5			35 28 35		追肥は収穫の始まる頃から速効性の肥料を施用する。
5,000		N P_2O_5 K_2O	20 25 20	5 5	5 5				30 25 30		
4,000		N P_2O_5 K_2O	5 10 5	5 5	5 5				15 10 15	・稲わら牛ふん堆肥を1,500kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：1.5kg りん酸：4.4kg 加里：7.2kg を差し引く（※）。］	流亡しやすいので施肥は追肥重点とする。
4,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 15	5 5					20 20 20	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。］ ・苦土炭カルを80kg施用する。	1. 樹冠の分布が浅いと品質もおちるので、仕立は深くする。 2. 基肥に肥効調節型（リニア型70日タイプ）を使用する場合は窒素を10kgとする。
3,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	5 18 12	3 3	3 3				11 18 18	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	1. 窒素の効きすぎは品質を低下するので注意する。 2. 排水を良好にする。
3,500	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	13 22 13	5 5					18 22 18	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。］ ・苦土炭カルを80kg施用する。	とくに吸肥力が強く、つるぼけになりやすいので、施肥は地力に応じて加減する。
5,000～8,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 15	5 5	5 5	5 5			30 20 30	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（※）。］ ・苦土炭カルを160kg施用する。	1. 乾燥に弱いので注意する。 2. 根水敷料は台木に応じて施肥量を調整する。
6,000		N P_2O_5 K_2O	25 35 25	5 5	4 4	3 3	4 4	3 3	44 40 44		
14,000		N P_2O_5 K_2O	25 35 25	5 5 5	4 4	3 3	4 4	4 4	45 40 45		1. 速効性肥料や有機質肥料を中心とした施肥設計とする。 2. 5番目以降の追肥は草勢を見て行う。

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
21. トマト	ハウス長期どり（越冬）	マイロック ハウス桃太郎	120×30～40cm 1条 2,100株～	②③④⑤ ○ ⇧ ①
	ハウス冬春どり	麗容 ハウス桃太郎 マイロック	200×40cm 2条（条間80cm） 2,100株～	①②③④ ○ ⇧
	抑制	麗夏 ハウス桃太郎		⇧ ① ② ③ ○
	夏どり	桃太郎 桃太郎ヨーク	200×40cm 2条（条間40cm） 2,500株	⇧ ①②③④ ○ ⇧ ①②③④ ○
	加工トマト	カゴメ932 カゴメ993	180×50cm 1,110株	▽ ① ② ○

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量（kg/10a）	適正pH	施肥量（kg/10a） 成分	基肥	追肥（回） 1回	2回	3回	4回	5回	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
16,000	6.0～6.5	N	20	4	4	4	4	4	40	・オガクズ牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 豆粕：2.1kg りん酸：12.0kg 加里：24.6kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	1. 緩効性肥料や有機質肥料を中心とした施肥設計とする。 2. 追肥は草勢に応じて行う。 3. 初期の多窒素による草勢過多に注意する。
		P_2O_5	30	5					35		
		K_2O	26	4	4	4	4	4	46		
12,000		（洪ボク土） N	18	5	4	4	4		35	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	1. 多窒素、高温、低線下では石灰欠乏が発生するのではなる。 2. 深根性であるので作土を深くする。 3. 着果までに草勢が強いと、不良果が発生したり玉伸びが劣るので、緩効性肥料や有機質肥料を中心とした施肥設計とする。 4. 抑木栽培は台木に応じて施肥量を調節する。 5. 雨よけ栽培は生育に応じて追肥を行い、多肥に注意する。
		P_2O_5	25	5					30		
		K_2O	23	5	4	4	4		40		
		（細粒質灰色低地土） N	14	4	4	4	4		30	・稲わら牛ふん堆肥を2,500kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：2.5kg りん酸：7.3kg 加里：12.0kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	
		P_2O_5	25						25		
		K_2O	18	4	4	4	4		34		
		（中粗粒灰色低地土） N	10	4	4	4	4		26	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	
		P_2O_5	22						22		
		K_2O	13	4	4	4	4		29		
6,000		N	10	4	4	4			22	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	
		P_2O_5	22						22		
		K_2O	13	4	4	4			25		
8,000		N	12	5	5	4	4		30	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを160kg施用する。	
		P_2O_5	25						25		
		K_2O	16	5	5	4	4		34		
8,000		N	6	3	3				12	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（例）。］ ・苦土炭カルを160kg施用する。	
		P_2O_5	25						25		
		K_2O	12	3	3				18		

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
22. ピーマン		下 松 2 号	200×45cm 2条（条間40cm） 2,200株	①②③ ①②③
23. いちご	夜冷育苗	とちおとめ	120cm× 22～24cm 2条高畝 7,500～8,000株	
	抑冷処理			
	高冷地育苗			
	ポット育苗			
	平地育苗			

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量（kg/10a）	適正pH	基肥量（kg/10a）成分	基肥	追肥（回）1回	2回	3回	4回	5回	成分合計	堆肥及び土づくり資材の施用例	備考
7,000	6.0～6.5	N	15	5	5	5			30	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒 素：2.0kg りん酸：5.8kg 加 里：9.6kg を差し引く（減）。］ ・苦土炭カルを160kg施用する。	
		P_2O_5	25						25		
		K_2O	15	5	5	5			30		
5,000～6,000	5.5～6.5	N	15	1	1	1	1	1	20	・オガクズ牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 ［この場合、左の基肥から 窒 素：1.4kg りん酸：8.0kg 加 里：16.4kg を差し引く（減）。］ ・苦土炭カルを100kg施用する。	1. 苗床施肥量（kg/a） （ポット育苗は除く） N 0.3～0.5 P_2O_5 0.5～1.0 K_2O 0.5～1.0 2. 根は弱く、肥やけを受けやすいので注意する。 3. 追肥は液肥を施用する。
		P_2O_5	20	0	0	0	0	0	20		
		K_2O	20	1	1	1	1	1	25		
5,000		N	15	1	1	1	1	1	20		
		P_2O_5	20	0	0	0	0	0	20		
		K_2O	20	1	1	1	1	1	25		
5,000		N	15	1	1	1	1	1	20		
		P_2O_5	20	0	0	0	0	0	20		
		K_2O	20	1	1	1	1	1	25		
5,000		N	15	1	1	1	1	1	20		
		P_2O_5	20	0	0	0	0	0	20		
		K_2O	20	1	1	1	1	1	25		
4,000		N	18	1	1	1	1	1	23		
		P_2O_5	20	0	0	0	0	0	20		
		K_2O	20	1	1	1	1	1	25		

イ　根菜類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）	目標収量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
24. だいこん	春どり	天翔 初舞台 ＹＲ鉄人	60×30cm 5,500～6,000株		5,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 18			15 20 18	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	はうあ欠乏地帯では必要に応じてはうあを含む肥材を施用する。
	夏どり（高冷地）	貴富 秋いち 夏つかさ			5,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 15	3 3		18 20 18		
	秋冬どり	関白 ＹＲくらま 秋まさり	70×30cm 5,000株		6,000		N P_2O_5 K_2O	13 20 13	3 3		16 20 16		
25. かぶ	春どり	白秋	60cm 広幅播		5,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	16 16 16			16 16 16	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	
	夏どり（高冷地）	毬姫	60cm 広幅播又はシードテープ		4,000		N P_2O_5 K_2O	15 15 15			15 15 15		
26. にんじん	初夏どり	ベータリッチ 向陽２号	60×12cm 2条（条間12cm） 28,000株		4,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 22 15			15 22 15	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	過大有機物を施用すると仕上りやすく発芽揃が劣ることが多い。
	秋冬どり（加工用含む）	向陽２号 ひとみＳ寸			4,000		N P_2O_5 K_2O	10 22 10	3 3		13 22 13	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	
27. ごぼう	夏どり	柳川理想	60×10cm 16,700株		2,500	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	12 40 12	5 5	5 5	22 40 22	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	
	秋冬どり	柳川理想			2,500		N P_2O_5 K_2O	17 40 17	3 3	3 3	23 40 23		

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

ウ　葉茎菜類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
28. はくさい	秋どり	耐病60日 筑波錦	70×40cm 3,600株	
	秋冬どり	陸徳 筑波錦	75×45cm 3,000株	
	春どり	新理想 黄ごころ	70×40cm 3,600株	
29. キャベツ	秋冬どり	金系201 YR錦秋	70×40cm 3,600株	
	春どり	金系201	70×35cm 4,100株	
	夏どり	金系201		
30. こまつな	秋どり	さおり	60cm 広巾	
	冬どり			
31. ほうれんそう	高冷地夏どり（雨よけ）	サンパワー エスパー	畦巾60cm 多条播	
	秋どり	あかねグリーン サンパワー		
	冬春どり	くららグリーン あかねグリーン	60cm 広巾	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥（回） 1回目	2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
4,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	17 25 17	5 5		22 25 22	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.8kg りん酸：5.8kg 加里：0.6kg を差し引く（米）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	ほう素欠乏になりやすい地帯では必要に応じてほう素を含む肥料を施用する。
6,000		N P_2O_5 K_2O	15 25 15	5 5		20 25 20		
4,000		N P_2O_5 K_2O	20 28 20			20 28 20		
5,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	16 25 20	5 5		21 25 25	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.8kg りん酸：5.8kg 加里：0.6kg を差し引く（米）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	1. 石灰が不足すると芯腐い病の誘発病が発生しやすくなる。 地肥力が強いので肥沃地を選ぶ。 2. 排水を良好にする。
4,000		N P_2O_5 K_2O	15 25 15	3 3	3 3	21 25 21		
3,500		N P_2O_5 K_2O	15 25 15			15 25 15		
2,000	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	20 15 15			20 15 15	・オガクズ牛ふん堆肥を1,500kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.1kg りん酸：6.0kg 加里：12.3kg を差し引く（米）。】 ・苦土炭カル100kgを施用する。	
1,500	6.5～7.0	N P_2O_5 K_2O	15 18 15	3		18 18 15	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（米）。】 ・苦土炭カルを160～200kg施用する。	1. 収穫近くなって葉色不良のときは葉面散布をする。 2. 葉数のわりに根が伸るので作土を深くする。 3. 雨よけ栽培では窒素を30%減肥する。 4. ほう素欠乏になりやすい地帯では必要に応じてほう素を含む肥料を施用する。
1,500		N P_2O_5 K_2O	14 16 14	3		17 16 14		
2,000		N P_2O_5 K_2O	15 18 15	3	3	21 18 15		

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
32. ねぎ	夏どり	秀長春宮 迎悦郎礼	90×3cm 37,000株	
	秋冬どり	耐寒全州 秀元宮 迎蔵蔵		
33. らっきょう		らくだ	60×7cm 24,000株	
34. たまねぎ	水田裏作	甘一70 ソニック もみじ3号 アポロ	60×12cm 2条（条間12cm） 28,000株	
35. にら	夏どり	サンダーグリーンベルト スーパーグリーンベルト パワフルグリーンベルト	45×25cm 8,800株	
	冬どり	サンダーグリーンベルト スーパーグリーンベルト ワンダーグリーンベルト		
36. にんにく		六片種	30×12cm 23,800株	
37. しょうが	露地早出	三州中太	60×30cm 5,600株	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

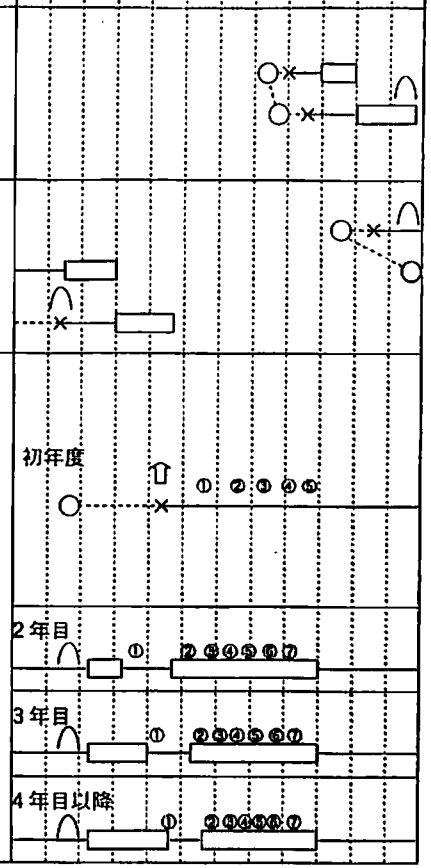
目標収量 (kg/10a)	適正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	追肥 3回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
3,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	5 10 8	5 10 8	5		15 20 16	・稲わら牛ふん堆肥を1,500kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.5kg りん酸：4.4kg 加里：7.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	1. 基肥は移植時。 2. 苗床施肥量（kg/a） 堆肥 300 N 0.6 P_2O_5 0.6～1.0 K_2O 0.7
3,500		N P_2O_5 K_2O	5 10 8	5 10 8	5	5	20 20 16		
2,000	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	6 10 10	3	3		12 10 10	・オガクズ牛ふん堆肥を800kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.6kg りん酸：3.2kg 加里：6.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを40kg施用する。	1. はぼ畝は無肥料。 2. 基肥は10月中旬頃施用する。
6,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	12 22 12	5 5 5	5 5		22 27 22	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：0.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを160kg施用する。	苗床施肥量（kg/a） 堆肥 300 N 2 P_2O_5 2 K_2O 2
4,000	6.0～7.0	N P_2O_5 K_2O	15 30 15	5 5	5 5	5 5	30 30 30	・稲わら牛ふん堆肥を3,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：3.0kg りん酸：8.7kg 加里：14.4kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	苗床施肥量（kg/a） 堆肥 300 N 2 P_2O_5 2 K_2O 2
4,000		N P_2O_5 K_2O	20 30 20	5 5	5 5		30 30 30		
1,500	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	8 12 8	3 3	3 3		14 12 14	・稲わら牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.0kg りん酸：2.9kg 加里：4.8kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを40kg施用する。	
3,000	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	14 25 12	5 5	5 5		24 25 22	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：0.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	球植用は基肥の窒素を30%減とする。

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）
38. みょうが		在来 赤城系	60×18cm 9,300株	1年目 ① 2年目以降 ①
39. うど		茎 白芽系	150×60cm 1,100株	① ② 堀上 軟化
40. みつば	軟化栽培	柳川2号	75cm 散播	① 堀上 軟化
41. しゅんぎく	夏秋どり	きわめ中葉 さとあきら さとゆたか おきく3号	60cm 広布	① ①
	秋冬どり			③ ① ②
42. カリフラワー	初秋どり	スノークラウン	70×40cm 3,600株	①
	秋どり	白駒	70×45cm 3,200株	①
43. ブロッコリー	春夏どり	ハイツ	60～75 ×45～60cm 2,800～3,000株	①② ①②
	秋冬どり	しげもり グリーンパラソル		①② ①②

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量 (kg/10a)	適正pH	肥料 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	追肥 3回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
1,500	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	14 18 16	3 3			17 18 19	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	
1,800	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	8 20 10	2 2	2 2		12 20 14	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを60kg施用する。	地上部の過繁茂をさける。
2,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	10 16 10	3 3			13 16 13	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	地上部の過繁茂をさける。
1,500	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	12 15 10	4 4			16 15 14	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	
1,500		N P_2O_5 K_2O	16 25 16	3 3	3 3	3 3	25 25 25		
2,500	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	20 25 20	5 5			25 25 25	・オガクズ牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.4kg りん酸：8.0kg 加里：16.4kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	1. 排水がよくないと生育低下がはやい。 2. 堆肥は完熟物を使用する。
2,500		N P_2O_5 K_2O	20 25 20	5 5			25 25 25		
1,500	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	14 25 14	4 4	4 4		22 25 22	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（減）。】 ・苦土炭カルを80kg施用する。	第2回追肥時に土寄せして倒伏を防止する。
1,500		N P_2O_5 K_2O	14 25 14	4 4	4 4		22 25 22		

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図
44. レタス	秋冬どり	エクシード ステディ サクセス オリンピア レッドウェーブ	120×30cm 5条 7,000株	
	春どり	ステディ ゲット シリウス	120×30cm 4条 6,000株	
45. アスパラガス		ウェルカム	150×30cm 2,000株	



※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目ぼ収量 (kg/10a)	酒正pH	施肥量 (kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
2,500	6.0～6.5	N	15									15	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	堆肥は完熟物を使用する。
		P_2O_5	20									20		
		K_2O	15									15		
2,000	6.0～6.5	N	20									20	・オガクズ牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から窒素：1.4kg りん酸：6.0kg 加里：16.4kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	
		P_2O_5	20									20		
		K_2O	20									20		
	6.0～6.5	N	10	3	3	3	3	3				25	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを200kg施用する。 ・ようりんを200kg施用する。	1. 初年度は、10年程度改植しないことを考慮して土づくりを十分に行う。 2. 2年目以降の堆肥、苦土炭カルは収穫終了後、または立茎前に施用する。 3. 排水を良好にする。
		P_2O_5	14		3		3					20		
		K_2O	10	3	3	3	3	3				25		
800		N		16	3	3	3	3	3	3		34	・稲わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、1回目の追肥から窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを160kg施用する。	
		P_2O_5		20		3		3		3		29		
		K_2O		12	3	3	3	3	3	3		30		
1,300		N		18	3	3	3	3	3	3	3	39		
		P_2O_5		22		3		3		3		31		
		K_2O		14	3	3	3	3	3	3	3	35		
1,500		N		20	3	3	3	3	3	3	3	41		
		P_2O_5		24		3		3		3		33		
		K_2O		17	3	3	3	3	3	3	3	38		

エ　菜実類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽植様式	作型模式図（1月～12月）	目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	追肥 3回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
46. スイートコーン	ﾏﾙﾁ栽培 夏どり	味来390 甘えん坊	70×30cm 4,800株		3,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	20 30 20	3 3			23 30 23	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	追肥は発芽後45～50日に施用する。
47. さやえんどう	春どり	早生あさか	150×30cm 2,200株		800	6.0～7.0	N P_2O_5 K_2O	5 15 9	3 3			8 15 12	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	
	秋どり	福姫												
48. そらまめ		一寸	100×30cm 3,000株		1,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	5 12 8	3 			8 12 8	・鶏わら牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：1.0kg りん酸：2.9kg 加里：4.8kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを120kg施用する。	
49. いんげん	夏どり	ｹﾝﾀｯｷｰﾜﾝﾀﾞｰ さつきみどり	60×25cm 2条(条間30cm) 13,500株		1,000	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	8 15 10	3 	2 		13 15 10	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	
50. えだまめ		美国グリーン 錦秋	50～60×24～30cm 6,000～6,900株		1,200	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	5 15 10	3 			8 15 10	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.7kg りん酸：4.0kg 加里：8.2kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	草勢をみて開花前に追肥する。
51. オクラ	露地	ｱｰｻｰﾌｧｲﾌﾞ	70～80×15～20cm 7,100～8,300株		1,200	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	15 20 15	4 4	3 3	3 3	25 20 25	・鶏わら牛ふん堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：2.0kg りん酸：5.8kg 加里：9.6kg を差し引く（※）。】 ・苦土炭カルを100kg施用する。	地肥力が強く、窒素不足の影響があらわれやすい。

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

(5) 果樹

作物名	栽培型又は作型	品種名	樹齢(年)	植栽本数(本/10a)	作型模式図 (1月〜12月)
52. なし	露地	幸水 豊水 新高 にっこり	1	80	
			2〜3	80	
		幸水 豊水 新高	4〜5	80	
			6〜7	40	
			8以上(成木)	20	
		にっこり	4〜5	80	
			6〜7	40	
			8以上(成木)	20	
	ハウス	幸水	8以上(成木)	20	
53. ぶどう	露地	巨峰	1	48	
			2〜4	48	
			5〜6	24	
			7〜8	12	
			9〜10	6	
			11以上(成木)	6	
	ハウス	巨峰	11以上(成木)	6	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2〜5を参考に決定する。

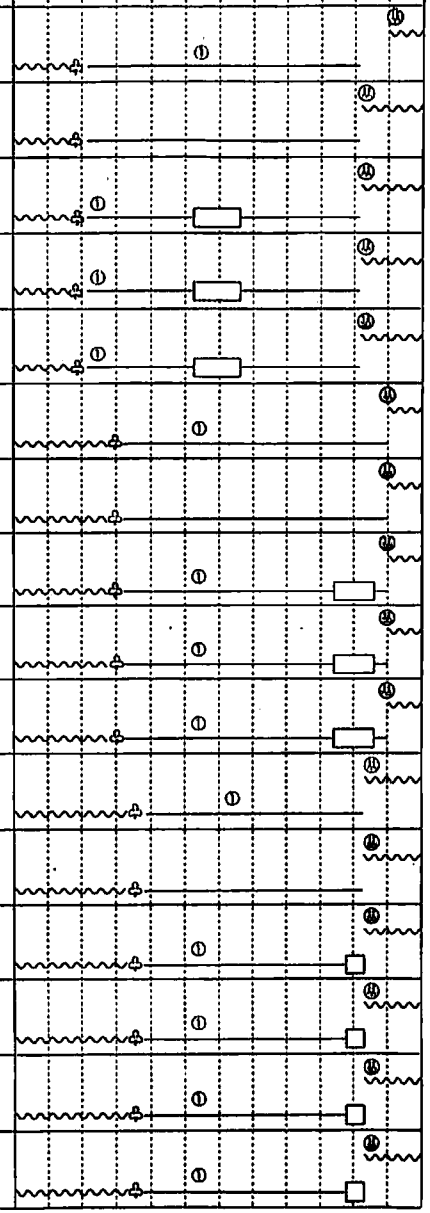
収穫量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
	6.0〜6.5	N P_2O_5 K_2O	2.0 3.0 2.5	1.0 1.0	3.0 3.0 3.5	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒素: 0 kg りん酸: 1.6 kg 加里: 1.4 kg を差し引く(減)。] ・苦土炭カルを30〜40kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を10〜15%増肥する。 3. 植付け時の基肥は、植穴に施用する。 4. 幸水などの結果樹の追肥(礼肥)は、収穫後に行う。 5. にっこりは、全量基肥とし追肥(礼肥)を施用しない。 6. ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断結果に基づき施用する。 7. 植栽本数は目安を示したものなので、樹冠の拡大状況に合わせて間伐、間伐を行う。
		N P_2O_5 K_2O	3.5 4.0 4.0	1.5 1.0	5.0 4.0 5.0		
幸水1,000 豊水1,200 新高1,300		N P_2O_5 K_2O	8.0 8.0 9.0	2.0 2.0	10.0 8.0 11.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒素: 0 kg りん酸: 3.2 kg 加里: 2.8 kg を差し引く(減)。] ・苦土炭カルを60〜80kg施用する。	
幸水2,000 豊水2,500 新高2,800		N P_2O_5 K_2O	10.0 9.0 11.0	3.0 2.0	13.0 9.0 13.0		
幸水3,000 豊水3,500 新高4,000		N P_2O_5 K_2O	15.0 13.0 15.0	5.0 3.0	20.0 13.0 18.0		
1,500		N P_2O_5 K_2O	10.0 8.0 11.0		10.0 8.0 11.0		
3,000		N P_2O_5 K_2O	13.0 9.0 13.0		13.0 9.0 13.0		
4,500		N P_2O_5 K_2O	20.0 13.0 18.0		20.0 13.0 18.0		
2,500		N P_2O_5 K_2O	15.0 13.0 15.0	5.0 3.0	20.0 13.0 18.0		
	6.5〜7.0	N P_2O_5 K_2O	0 3.0 1.5	0.5 0.5	0.5 3.0 2.0	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒素: 0 kg りん酸: 1.6 kg 加里: 1.4 kg を差し引く(減)。] ・苦土炭カルを30〜40kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を20%増肥する。 3. 樹勢が旺盛なときは、基肥に窒素を施用しない。 4. 窒素の施用量は、樹種診断と結果量によって決める。 5. 追肥は、落花後できるだけ早く行う。 6. ほう素入り肥料を1年おきに施用する。 7. ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断結果に基づき施用する。 8. 収量、植栽本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。
400		N P_2O_5 K_2O	0 6.0 5.0	0 〜 2.0	0 〜 2.0 6.0 5.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒素: 0 kg りん酸: 3.2 kg 加里: 2.8 kg を差し引く(減)。] ・苦土炭カルを40〜60kg施用する。	
800		N P_2O_5 K_2O	0 8.0 7.0	0 〜 2.0	0 〜 2.0 8.0 7.0		
1,200		N P_2O_5 K_2O	0 〜 2.0 8.0 7.0	2.0	2.0 〜 4.0 8.0 7.0		
1,400		N P_2O_5 K_2O	2.0 〜 4.0 11.0 8.0	2.0 〜 4.0	4.0 〜 8.0 11.0 8.0		
1,600		N P_2O_5 K_2O	4.0 〜 6.0 11.0 8.0	4.0	8.0 〜 10.0 11.0 8.0		
1,600	6.5〜7.0	N P_2O_5 K_2O	4.0 〜 6.0 11.0 8.0	4.0	8.0 〜 10.0 11.0 8.0		

作物名	栽培型又は作型	品種名	樹齢(年)	栽植本数(本/10a)	作型模式図 (1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月)
53. ぶどう	露地	キャンベルアーリー	1	40	
			2～3	40	
			4～5	40	
			6～7	20	
			8以上(成木)	10	
	雨よけ(結実被覆)	キャンベルアーリー	8以上(成木)	10	
54. りんご	露地(マルバ台)	つがるジョナゴールドふじ	1	80	
			2～3	80	
			4～6	80	
			7～9	40	
			10以上(成木)	20	
	露地(わい台)	つがるジョナゴールドふじ	1	100	
			2	100	
			3～4	100	
			5～6	100	
			7以上(成木)	50～70	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量(kg/10a)	酸度 pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
	6.0～7.0	N 0.5 P_2O_5 2.5 K_2O 2.0	0.5 0.5	1.0 2.5 2.5		未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:1.6 kg 加 里:1.4 kg を差し引く(※)。] ・籾殻炭カルを30～40kg施用する	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を70%増肥する。 3. ほう素入り肥料を1年おきに施用する。 4. 追肥は落花後できるだけ早く行う。 5. ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断に基づき施用する。 6. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。
400		N 1.5 P_2O_5 4.0 K_2O 3.5	0.4 0.5	1.9 4.0 4.0		結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:3.2 kg 加 里:2.8 kg を差し引く(※)。] ・苦土炭カルを60～80kg施用する	
1,000		N 4.0 P_2O_5 6.0 K_2O 5.5	1.0 2.5	5.0 6.0 8.0			
1,500		N 6.0 P_2O_5 7.0 K_2O 7.0	2.0 4.0	8.0 7.0 11.0			
2,000		N 8.0 P_2O_5 8.0 K_2O 8.0	2.0 5.0	10.0 8.0 13.0			
1,800	6.5～7.0	N 8.0 P_2O_5 8.0 K_2O 8.0	2.0 5.0	10.0 8.0 13.0			
	5.5～6.0	N 0.5 P_2O_5 2.5 K_2O 2.0	0.5 0.5	1.0 2.5 2.5		未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:1.6 kg 加 里:1.4 kg を差し引く(※)。] ・苦土炭カルを30～40kg施用する ・ようりんを20～30kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を20～30%増肥する。 3. 植付け時の基肥は、植穴に施用する。 4. ほう素入り肥料を1年おきに施用する。 5. 樹勢の弱い品種は、窒素を10～30%増肥する。 6. ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断に基づき施用する。 7. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。 8. 同じ堆肥を連用すると、りん酸や加里等が過剰となることがあるので、注意する。
		N 1.0 P_2O_5 2.5 K_2O 2.5		1.0 2.5 2.5			
1,000		N 2.0 P_2O_5 5.0 K_2O 5.0	1.0 2.5	3.0 5.0 7.5		結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:3.2 kg 加 里:2.8 kg を差し引く(※)。] ・苦土炭カルを60～80kg施用する ・ようりんを40～60kg施用する。	
2,000		N 3.0 P_2O_5 8.0 K_2O 7.0	2.0 3.0	5.0 8.0 10.0			
3,000		N 4.0 P_2O_5 9.0 K_2O 9.0	2.0 4.0	6.0 9.0 13.0			
		N 0 P_2O_5 2.5 K_2O 1.5	1.0 1.0	1.0 2.5 2.5		未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:1.6 kg 加 里:1.4 kg を差し引く(※)。] ・苦土炭カルを60～80kg施用する ・ようりんを60～80kg施用する。	
		N 1.0 P_2O_5 2.5 K_2O 2.5		1.0 2.5 2.5			
500		N 2.0 P_2O_5 5.0 K_2O 5.0		2.0 5.0 5.0		結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 [この場合、左の基肥から 窒 素:0.0 kg りん酸:3.2 kg 加 里:2.8 kg を差し引く(※)。] ・苦土炭カルを60～80kg施用する ・ようりんを60～80kg施用する。	
1,000		N 3.0 P_2O_5 8.0 K_2O 9.0	2.0 4.0	5.0 8.0 13.0			
3,000		N 4.0 P_2O_5 9.0 K_2O 11.0	2.0 4.0	6.0 9.0 15.0			

作物名	栽培型又は作型	品種名	樹齢(年)	栽植本数(本/10a)	作型模式図
55. うめ	露地	白加賀 甲州最小 玉英 南高	1	48	
			2	48	
			3～4	48	
			5～9	24	
			10以上(成木)	12	
56. かき	露地	平核無 蛭屋 (甲州百目)	1	77	
			2～3	77	
			4～8	77	
			9～12	38	
			13以上(成木)	19	
57. キウイフルーツ	露地	ヘイワード	1	33～40	
			2	33～40	
			3～4	33～40	
			5～9	33～40	
			5～9	16～20	
			10以上(成木)	8～10	



※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	1.0 2.0 2.0	1.0	2.0 2.0 2.0	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：1.6kg 加里：1.4kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを20～30kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を10～15%増肥する。 3. 植え付け1年目の基肥は、植え穴に施用する。 4. 苦土炭カル、ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断により加減する。特に、栽植8年目以降や改植の場合は、過剰となる場合が多いので注意する。 5. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	2.0 2.5 2.5		2.0 2.5 2.5		
200～600		N P_2O_5 K_2O	3.0 6.0 6.0	1.0 1.0	4.0 6.0 7.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：3.2kg 加里：2.8kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを40～60kg施用する。 ・ようりんを20～40kg施用する。	
600～1,000		N P_2O_5 K_2O	6.0 9.0 9.0	2.0 2.0	8.0 9.0 11.0		
1,000～1,500		N P_2O_5 K_2O	10.0 13.0 13.0	3.0 3.0	13.0 13.0 16.0		
	5.5～6.5	N P_2O_5 K_2O	1.0 4.5 2.5	1.0 1.0	2.0 4.5 3.5	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：1.6kg 加里：1.4kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを28～30kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を10～15%増肥する。 3. 植え付け1年目の基肥は、植え穴に施用する。 4. 苦土炭カル、ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断により加減する。特に、栽植8年目以降や改植の場合は、過剰となる場合が多いので注意する。 5. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	2.0 4.5 3.5		2.0 4.5 3.5		
200～800		N P_2O_5 K_2O	8.0 11.0 11.0	2.0 2.0	10.0 11.0 13.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：3.2kg 加里：2.8kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを40～60kg施用する。 ・ようりんを20～40kg施用する。	
1,000～1,800		N P_2O_5 K_2O	12.0 16.0 15.0	4.0 4.0	16.0 16.0 19.0		
2,000		N P_2O_5 K_2O	14.0 16.0 17.0	4.0 4.0	18.0 16.0 21.0		
	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	0 2.5 2.5	0.5 0.5	0.5 2.5 3.0	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：1.6kg 加里：1.4kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを30～40kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を10～15%増肥する。 3. 苦土炭カル、ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断により加減する。特に、栽植8年目以降や改植の場合は、過剰となる場合が多いので注意する。 4. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹勢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	0.5 3.5 3.5		0.5 3.5 3.5		
200～600		N P_2O_5 K_2O	2.5 7.0 6.0	0.5 2.0	3.0 7.0 8.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0kg りん酸：3.2kg 加里：2.8kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを60～80kg施用する。 ・ようりんを20～40kg施用する。	
600～1,000		N P_2O_5 K_2O	6.5 9.0 8.0	1.5 3.0	8.0 9.0 11.0		
600～1,000		N P_2O_5 K_2O	8.0 11.0 9.0	2.0 4.0	10.0 11.0 13.0		
1,000～1,500		N P_2O_5 K_2O	12.0 15.0 11.5	3.0 5.5	15.0 15.0 17.0		

作物名	栽培型又は作型	品種名	樹齢(年)	栽植本数(本/10a)	作型模式図 (1月～12月)
58. くり	露地	丹沢 国見 筑波 利平 石鎚	1	48	
			2～3	48	
			4～6	48	
			7～8	24	
			9以上(成木)	12	
59. もも	露地	日川白鳳 あかつき 川中島白桃	1	48	
			2～3	48	
			4～5	48	
			6～7	24	
			8以上(成木)	12	
60. すもも	露地	大石早生 ソルダム	1	48	
			2～3	48	
			4～5	48	
			6～7	24	
			8～10	12	
			11以上(成木)	12	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
	5.0～5.5	N P_2O_5 K_2O	1.0 3.5 3.5	1.0		2.0 3.5 3.5	果樹園樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0kg りん酸 : 1.6kg 加里 : 1.4kg を差し引く(※)。】 ・苦土炭カルを20～30kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を10～15%増肥する。 3. 植付け時の基肥は、植穴に施用する。 4. 結果樹の苦土炭カル、ようりんなどの土づくり肥料は、土壌診断を行い不足する場合に施用する。 5. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹齢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	2.5 4.5 4.0	0.5		3.0 4.5 4.0		
100		N P_2O_5 K_2O	4.0 7.0 6.0	1.0 1.0		5.0 7.0 7.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0kg りん酸 : 3.2kg 加里 : 2.8kg を差し引く(※)。】	
250		N P_2O_5 K_2O	7.0 8.0 7.0	2.0 1.5		9.0 8.0 8.5		
300		N P_2O_5 K_2O	12.0 11.0 11.0	3.0 2.0		15.0 11.0 13.0		
	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	1.0 2.5 2.0	0.5		1.5 2.5 2.0	果樹園樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0kg りん酸 : 1.6kg 加里 : 1.4kg を差し引く(※)。】 ・苦土炭カルを30～40kg施用する。	1. 沖積土を基準とした。 2. 黒ボク土では、窒素を20～30%減肥し、ようりんを20～40kg施用する。 3. 植付け時の基肥は、植穴に施用する。 4. 苦土炭カルは、土壌診断により加減する。 5. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹齢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	1.5 2.5 2.0			1.5 2.5 2.0		
500～1,000		N P_2O_5 K_2O	2.5 4.0 4.0	0.5		2.5 4.0 4.5	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0kg りん酸 : 3.2kg 加里 : 2.8kg を差し引く(※)。】 ・苦土炭カルを60～80kg施用する。	
1,500～2,000		N P_2O_5 K_2O	4.0 5.0 5.0	1.0	1.0 1.0	5.0 5.0 7.0		
2,000～3,000		N P_2O_5 K_2O	8.0 7.0 7.0	2.0	2.0 2.0	10.0 7.0 11.0		
	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	1.5 2.5 2.0			1.5 2.5 2.0	果樹園樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0 kg りん酸 : 1.6 kg 加里 : 1.4 kg を差し引く(※)。】 ・苦土炭カルを30～40kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を20～30%増肥する。 3. 植付け時の基肥は、植穴に施用する。 4. 結果樹の苦土炭カル、ようりんは、土壌診断を行い、不足する場合に施用する。 5. 収量、栽植本数は目安を示したものなので、樹齢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	1.5 2.5 2.0			1.5 2.5 2.0		
500		N P_2O_5 K_2O	2.5 4.5 5.5			2.5 4.5 5.5	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 苦土 : 0.0kg りん酸 : 3.2kg 加里 : 2.8kg を差し引く(※)。】	
1,000		N P_2O_5 K_2O	4.0 6.0 7.0	1.0 1.0		5.0 6.0 8.0		
1,200		N P_2O_5 K_2O	8.0 11.0 11.0	2.0 2.0		10.0 11.0 13.0		
1,500		N P_2O_5 K_2O	10.0 11.0 11.0	3.0 2.0		13.0 11.0 13.0		

作物名	栽培型又は作型	品種名	樹齢(年)	植栽本数(本/10a)	作型模式図 (1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月)
61. ブルーベリー	露地	ハイブッシュ系 アーリーブルー バークレイ ダロウ	1～2	333	
			3～4	333	
		ラビットアイ系 ホームベル ウッダード ティフブルー	5～6	333	
			7以上(成木)	166	
62. ゆず	露地		1	110	
			2～3	110	
			5～9	110	
			10～14	55	
			15以上(成木)	28	

※堆肥等の施用によって土づくりを行う。化学肥料の基肥量は、P2～5を参考に決定する。

土性収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例	備考
	ハイブッシュ系 4.0～5.0	N P_2O_5 K_2O	1.0 2.0 1.0	0.5		1.5 2.0 1.0		1. 植付け時にピートモスを混ぜ、適正pHにする。 2. 速効性肥料は肥料やけを起こす場合があるので、注意する。 3. モミガラ、オガクズ、バーク堆肥などでマルチを行い乾燥防止に努める。 4. 収量、植栽本数は目安を示したものなので樹齢に応じ加減する。
200～400		N P_2O_5 K_2O	2.0 5.5 3.5	1.0	1.0	4.0 5.5 3.5		
600～800	ラビットアイ系 4.0～5.5	N P_2O_5 K_2O	3.0 7.5 5.0	1.5	1.5	6.0 7.5 5.0		
1,000		N P_2O_5 K_2O	4.0 10.0 7.0	2.0	2.0	8.0 10.0 7.0		
	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	2.0 4.5 3.5	1.0 0.5	1.0 0.5	4.0 4.5 4.5	未結果樹 ・バーク堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0 kg りん酸：1.6 kg 加里：1.4 kg を差し引く(減)。】 ・苦土炭カルを30～40kg施用する。 ・ようりんを10～20kg施用する。	1. 黒ボク土を基準とした。 2. 黒ボク土以外では、窒素を20～30%増肥する。 3. 結果樹では、苦土炭カル、ようりんなどの土づくり肥料を、土壌診断に基づき施用する。 4. 収量、植栽本数は目安を示したものなので、樹齢に応じ加減する。
		N P_2O_5 K_2O	3.0 3.5 3.5	1.0 0.5	1.0 0.5	5.0 3.5 4.5		
500～1,000		N P_2O_5 K_2O	5.0 9.0 7.0	2.5 2.0	2.5 2.0	10.0 9.0 11.0	結果樹 ・バーク堆肥を2,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.0 kg りん酸：3.2 kg 加里：2.8 kg を差し引く(減)。】	
1,000～1,800		N P_2O_5 K_2O	7.0 9.0 12.0	4.0 3.0	4.0 3.0	15.0 9.0 18.0		
2,000		N P_2O_5 K_2O	10.0 15.0 11.0	5.0 4.0	5.0 4.0	20.0 15.0 19.0		